

No.216

冬の始まりは、比較的暖かなスタートでしたが、1月に入ると寒さも増し、大寒には底冷えする寒さがやってきました。その後も各地で厳しい寒さが吹き荒れました。2月3日は節分の日。子供の頃には、「鬼は外、福は内」と声を上げて豆まきをし、年の数だけ豆を食べたものですが、今も、無病息災を願いながら、子供たちと一緒に豆まきを楽しんだ方たちもいるのではないのでしょうか。翌日の4日は暦の上では立春。これからは、徐々に陽射しも明るさと暖かさを増していき、春が一步步近づいてきますが、まだまだ寒い日が続きます。梅の木の花の蕾が咲き膨らむのを見ながら、もうしばらく春の訪れを待つことにしましょう。それでは、今月のレビューをご紹介します。

卓越した技能者を厚生労働大臣が表彰する2007年度の「現代の名工」に中央電気工業（株）の後藤秀男さんも選ばれました。入社以来、電炉操業一筋39年、フェロマンガンを製造してきました。電力コストを低減して国際競争力向上に寄与し、また、リサイクル事業の安定操業技術を確立して、環境リサイクル事業にも貢献してきた実績が認められ、今回の受賞となりました。これからも、この匠の技を次世代へと継承していきます。元日には、鹿島アントラーズが第87回天皇杯全日本サッカー選手権大会で優勝しました。2007年のJリーグ優勝に続き、シーズン2冠を達成しました。見事な復活を遂げた鹿島アントラーズから今年も目が離せません。今年もレビューで様々な話題をお届けしていきますので、よろしくお願い致します。

目次

● 電炉操業の達人

2007年度の「現代の名工」に中央電気工業（株） 後藤秀男さんが選ばれる

● The Double

鹿島アントラーズが第87回天皇杯全日本サッカー選手権大会優勝 シーズン2冠達成

● 電炉操業の達人

<2007年度の「現代の名工」に中央電気工業（株） 後藤秀男さんが選ばれる>

溶融亜鉛めっき一筋40年の辻本康男さんが、卓越した技能者を厚生労働大臣が表彰する2007年度「現代の名工」に選ばれたことを前号のマンズリーレビューでご紹介しました。今月は、同時に選出された私たちの関係会社である中央電気工業（株） 後藤秀男さんについてご紹介します。後藤さんは、入社して以来、電炉操業一筋39年。マンガンと鉄の合金で製鋼の副原料として使われるフェロマンガンを製造してきました。フェロマンガンは、電気炉という設備で製造されます。電気炉はその名の通り、電気を使って金属を溶かして精錬するので、電力をたくさん使います。そのため、高価な昼間の電力を最小限に抑え、料金が安い夜間帯の電力を利用する必要がありますが、そうすると昼夜間に大きな電力差が生じ、炉内状況が大きく変化してしまいます。



中央電気工業（株） 後藤秀男さん

後藤さんは、長年の知識と経験をもとにフェロマンガンを精錬する際に発生する電力について、高価な昼間の電力消費を最小限に抑える昼夜間の電力負荷段差操業の現場技術*を確立。電気炉は、1,500℃程度の高温で連続操業するため、炉内を直接観察することができず状況判断の難しい設備ですが、後藤さんの匠の技を生かし、炉内圧、炉内ガス濃度、原料消費量、電力負荷、炉壁温度など炉内の状況を適確に判断して、炉内状況の安定化に努めながら、電力コスト低減による国際競争力向上に貢献しました。

環境リサイクル事業にも貢献しています。2002年に中央電気工業（株）の鹿島工場に設置した廃棄物溶融専用炉で、近隣で発生するごみ焼却灰などの廃棄物を1,250℃～1,450℃の高温下で加熱溶融し、結晶質またはガラス質のスラグにする廃棄物溶融固化リサイクルの安定操業技術を確立。リサイクル材として出荷し、川の護岸や歩道の路盤材として使われています。この技術で近隣市町村の自治体から出たごみ焼却灰を無害化処理し、廃棄物の安全処理と社会のゼロエミッション化に寄与しました。これらの実績が認められ、今回、この名誉ある賞に選ばれました。

現場で活躍してきた後藤さんは、これまで培ってきた卓越した技能を次世代へ伝えるべく、後輩たちへの技能伝承にも力を注いでいます。こうした後藤さんの優れた技能と技術伝承への熱い思いが、住友金属グループの優れた「ものづくり」を支えています。

* 電気料金は多量消費される昼間帯と消費の減る夜間帯とで料金が差が設けられています。工業用の高圧電気では、夜間帯は昼間帯に比べ1/3に割引されます。この料金差メリットを生かすために、昼間帯は使用電力量を減らし、夜間帯に増やす操業です。

● The Double

<鹿島アントラーズが第87回天皇杯全日本サッカー選手権大会優勝 シーズン2冠達成>

2008年が幕をあげたその日、歓喜は再び訪れました。鹿島アントラーズが2007年Jリーグ優勝に続き、第87回天皇杯全日本サッカー選手権大会で優勝し、今シーズン2冠を達成しました。

元日、曇り空の下、4万6,000人余りが見守る中、東京・国立競技場で行なわれた天皇杯決勝戦。相手は、サンフレッチェ広島。開始早々、前半8分に内田選手のシュートが決まり、幸先よく鹿島アントラーズが先制。その後は鹿島アントラーズ守備陣が、相手の攻撃を単発のサイドアタックのみに封じ込め、決定的なチャンスをほとんど作らせませんでした。そして、後半ロスタイム、ダニーロ選手がシュートを決め、2対0。勝利を決定づけました。これで天皇杯優勝は7年ぶり3回目となり、Jリーグのクラブとしては天皇杯最多優勝クラブとなりました。また、Jリーグ発足以来、ナビスコカップ、Jリーグ、天皇杯の通算獲得タイトルは11個となりました。
絶好の形で2008年をスタートした鹿島アントラーズ。皆さん、これからも応援をよろしくお願いします。

